

## 参考 行政サービスの充実をめざして

### (1)北九州市の先進的な施策・充実した施策

#### くらし・健康

##### ●「赤ちゃんの駅」設置事業

外出中に授乳やオムツ替えなどで立ち寄ることができるような施設を「赤ちゃんの駅」として登録するものです。公共施設だけでなく、民間事業者と協力して事業を進めていくという本市独自の手法で充実に努めています。



##### ●高齢者排泄相談事業

尿もれや頻尿、尿失禁、おむつ等のあて方・選び方など、排泄に関することでお悩みの高齢者やその家族が気兼ねなく相談できるよう、排泄に関する電話相談窓口「さわやか相談ダイヤル0620（おむつゼロ）」を政令市で初めて開設しました。また、定期的に相談会も開催しています。

##### ●健康マイレージ事業

日ごろの健康づくりへの取組みをポイント化し、そのポイントを還元することで、健康づくりの重要性を広く普及啓発するとともに、市民の自主的かつ積極的な健康づくりへの取組みを促すもので、介護予防事業としては全国初の試みです。

#### 環境・産業・経済

##### ●環境モデル都市に選定

北九州市は、地球温暖化防止のために低炭素社会づくりを先駆的に進める国の「環境モデル都市」に選定されました。CO<sub>2</sub>の大幅削減による地球温暖化問題の解決、豊かな暮らしや経済など都市活力の増大、アジアの低炭素化の推進により、いい未来を拓いていきます。このため、市民、産業界、行政等と一緒に策定した行動計画（グリーンフロンティアプラン）に基づき取組みを進め、北九州市から、国、そして世界へ低炭素社会を拡げます。



##### ●東アジア経済交流推進機構

ビジネスチャンスの拡大と相互交流の活性化を目指し、黄海に面する日中韓3カ国10都市の行政と経済界（商工会議所）が一体となって、平成16年に「東アジア経済交流推進機構」を設立し、北九州市が事務局を務めています。

この機構は北九州市が提唱した「環黄海経済圏構想」をもとに、北九州市と下関市の姉妹・友好都市への呼びかけによって創設した「東アジア都市会議」が前身となっており、世界的にも珍しい取組みとして注目されています。

##### ●モーダルシフト推進補助制度

運輸・物流部門でCO<sub>2</sub>削減を促し、環境モデル都市・北九州市のPRと北九州港の利用促進を図る観点から、北九州港を利用したモーダルシフト（トラック等から鉄道、内航船、フェリー等への輸送手段転換）事業に対して補助金を交付しています。この取組みは、フェリーや鉄道貨物ターミナルなど、本市の充実した物流基盤を背景としたものであり、平成18年度から実施しています。

## 安全・安心

### ● バリアフリーのまちづくり

平成9年度より市民と行政が一体となって、歩道の拡幅や平坦化、視覚障害者誘導用ブロックの設置など、誰もが安心して歩くことのできる歩行空間の整備に取り組んでおり、主要駅周辺における主要経路のバリアフリー化率は、政令市で1位（平成18年度末）となっています。また、全国の先駆けである小倉都心地区の取組みは、国の基準や交通バリアフリー法などのモデルにもなりました。

### ● 救急搬送体制の充実・強化

救急隊員に対する教育訓練の向上を図り、迅速な搬送体制の維持に努めています。その結果、救急車の出動から医療機関到着までの時間は18大都市（17政令市+東京都）の平均30.3分に対し、本市は23.3分となっています。また、受入れ手配が3回以内で99%完了するなど、スムーズな病院受入体制がとられています。

### ● JICA研修「消火技術」

昭和63年、総務省消防庁及び国際協力機構（JICA）の協力を得て、自治体単独での研修事業として日本で初めて開設し、これまで74の国と地域、191名の消防職員等が受講しています。また、日本の消防での消火技術コースは、北九州市だけが実施しています。

## 文化・スポーツ

### ● 北九州フィルム・コミッション

北九州市では、日本で最も早く（平成元年）から映画やテレビドラマ、旅番組などの撮影誘致・支援事業に取り組んできました。平成12年には、この活動をさらに強化するため、フィルム・コミッション組織を設立するなど、映像を通じた本市のイメージアップに積極的に取り組んでいます。

（誘致した例）「海猿」、「デスノート」、「東京タワー」、「K-20 怪人二十面相・伝」、「おっぴいバレー」 など

### ● 北九州市自分史文学賞・北九州市子どもノンフィクション文学賞

北九州市では、自分自身の体験を中心に自らのあり方を綴ったもの、または自分自身に大きな影響や感銘を与えた人物の生き方を綴った「自分史」を全国・海外から公募し、優秀作品を表彰しており、平成21年度で第20回の開催となります。

本文学賞によって、ノンフィクションの一ジャンル確立に貢献した実績は、関係者から高い評価を受けています。

また、平成21年度から全国の小・中学生を対象に「北九州市子どもノンフィクション文学賞」を創設しました。

### ● 北九州チャンピオンズカップ 国際車椅子バスケットボール大会

平成14年に北九州市で開催された世界車椅子バスケットボール選手権大会「北九州ゴールドカップ」を記念して毎年開催している大会です。世界各地のクラブチャンピオンチームを招待して行う、世界で唯一の、車椅子バスケットボールクラブチーム世界一決定戦です。



## 美しいまちへ

### ● 関門景観条例

関門の景観をより魅力あるものとするため、北九州市と下関市は、全国で初めて、県境を越え同じ名称・条文の「関門景観条例」を制定しました（平成13年施行）。この条例により指定を受けた「関門景観形成地区」は2,905haで、全国最大規模の指定面積となっています。

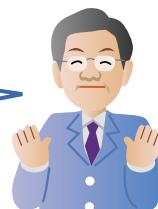
### ● ほたるのふるさとづくり

北九州市では、平成4年に全国に先駆けて「ほたる係」を設置し、ホタルや水辺生態系についての情報発信、ホタル愛護団体の支援、ホタルのすめる環境整備などを行い、ホタルを通して川づくり、まちづくりを支援しています。



## (2) 北九州市の最近の受賞歴

北九州市の活動は、さまざまな分野  
で高い評価をいただいています。



### 子育て

#### ●「次世代育成環境ランキング」3年連続で政令市1位（平成17～19年度）

「NPO法人エガリテ大手前」主催の標記ランキングにおいて、出産環境、乳幼児保育、児童福祉、母子福祉、小児医療など、幅広い観点から次世代育成に優れた環境を提供している都市として、3年連続で政令市第1位を獲得しました。

### 環境

#### ●「日本の環境首都コンテスト」 2年連続で総合1位（平成18・19年度）

「環境首都コンテスト全国ネットワーク」（全国の12環境団体で構成）主催の標記コンテストで、平成19年度参加66自治体（平成18年度は74自治体）中、2年連続で総合第1位を獲得しました。



#### ●「クリアウォーター賞」（平成18年度） 「エクセレンス・オン・ザ・ウォーターフロント賞（環境部門）」（平成19年度）

NPO団体「ウォーターフロントセンター」（本拠地：アメリカ）が全世界を対象に表彰を行うもので、平成18年度は、戸畑区婦人会協議会と本市の公害克服への取組みと成果、平成19年度は本市の「紫川マイタウン・マイリバー整備事業」の成果が高く評価され、本市は2年連続で各賞を受賞しました。なお、「クリアウォーター賞」は日本国内初の受賞です。

#### ●「日本水大賞」審査部会特別賞（平成20年度）

ホテルをシンボルとしたまちづくり、国際的な展開など、本市の先駆的・ユニークな水環境保全への取組みが高い評価を受け、社団法人「日本河川協会」から特別賞が贈られました。

### 文化・芸術

#### ●「菊池寛賞」（平成20年度）

松本清張記念館が、水準の高い研究誌を発行しつつ、多彩な企画展を催すなど健闘しながら開館10周年を迎えたことに対して、日本文学振興会から賞が贈られました。

#### ●「全国広報コンクール 映像部門」総務大臣賞・読売新聞社賞（平成20年度）

市政テレビ番組「認知症～この青空を忘れない～」が、日本広報協会主催の標記コンクールで、映像部門のトップの特選にあたる「総務大臣賞」と、特に住民の視点を大切にされた作品に贈られる「読売新聞社賞」をあわせて受賞しました。

#### ●「JAFRAアワード（総務大臣賞）」（平成20年度）

北九州芸術劇場の総合的な演劇プログラムに対し、地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績があったとして、財団法人地域創造から「JAFRAアワード（総務大臣賞）」が贈られました。

### 産業・学術

#### ●「第5回 産学官連携功労者表彰」総務大臣賞（平成19年度）

消防局、北九州市立大学、地元企業との産学官の連携により、小水量かつ環境負荷の少ない消火剤の開発と商品化に成功し、さらにこれを使用した放射システムの開発と新たな消防戦術を構築したことが高い評価を受けました。

#### ●「全国大学の地域貢献度ランキング」全国総合1位（平成20年度）

北九州市立大学が、日本経済新聞社が実施した「第3回大学の地域貢献度ランキング」調査において、全国の国・公・私立大学の中から1位に選ばれました。小中高生向け公開講座の実施、地域のNPO法人やボランティア団体と連携して

行う多世代交流等の展開、空き店舗活用による地元商店街の活性化など、住民や行政との連携への取組みが特に評価されました。なお、公立大学のみでは、3年連続で1位を獲得しています。

## 人権啓発

### ●「人権啓発資料法務大臣表彰」映像の部 8年連続で優秀賞（平成12～19年度）

本市が制作している人権啓発アニメーション（平成19年度は「ひまわりのように」）が、テーマ、内容、構成等についての完成度が高く評価を受けました。（(財)人権教育啓発推進センター主催）

### ●「2008年優秀映像教材選奨」映画の部 優秀作品賞（平成20年度）

本市が制作している人権啓発アニメーション「夢のつづき」が、教育に利用される優秀な映像教材として高い評価を受けました。（(財)日本視聴覚教育協会主催）

## 土木・建築・まちづくり

### ●「花のまちづくり大賞・国土交通大臣賞」（平成19年度）

「第17回 全国花のまちづくりコンクール」において、多数の市民ボランティアによる花壇の管理や花づくりリーダーの育成等、市民と行政が一体となった花のまちづくりの取組みが高い評価を受けました。

### ●「都市景観大賞」美しいまちなみ大賞（国土交通大臣賞）（平成19年度）

紫川マイタウン・マイリバー整備地区での河川・道路・公園の一体的な整備をきっかけに、紫川周辺で活動している紫川マイタウンの会などの地元のまちづくり団体主体の四季折々のイベントが盛んに行われるなど、賑わいのある魅力的なまちづくりが高い評価を受けました。



### ●「土地活用モデル大賞」都市みらい推進機構理事長賞（平成18年度）

「門司赤煉瓦プレイス」が、NPOと行政、民間企業が連携して産業遺産の再生・運営を行っている優れた事例として高い評価を受けました。

### ●「手づくり郷土賞」（国土交通大臣賞）（平成20年度）

「<sup>いたびつ</sup>板櫃川水辺の<sup>がっこう</sup>楽校」（八幡東区高見）について、都市の中的良好な水辺空間整備とそれを活用した地域活動などの取組みが評価され、地域団体（水辺の楽校の会）と本市が共同で受賞（平成20年度は九州で1件、全国で15件が受賞）しました。



## 国際協力

### ●「大連市星海友誼賞」（平成15・16・18・20年度）

深刻な水問題を抱える中国・大連市からの技術協力要請に基づき、研修生の受入れと本市水道局職員の派遣を実施し、安全・安定給水の向上に取り組んだ功績が評価され、大連市から賞が贈られました。

これからもさまざまな分野でサービスの向上に努力していきます。

### ●「循環のみち下水道賞」特別部門 国土交通大臣賞（平成20年度）

アジア地域の国々に向けた、下水道分野における国際技術協力の取組み（8カ国・28回・延べ39名の職員派遣と、82カ国・87回・690名の研修生受け入れ（平成20年12月時点））が高い評価を受けました。

